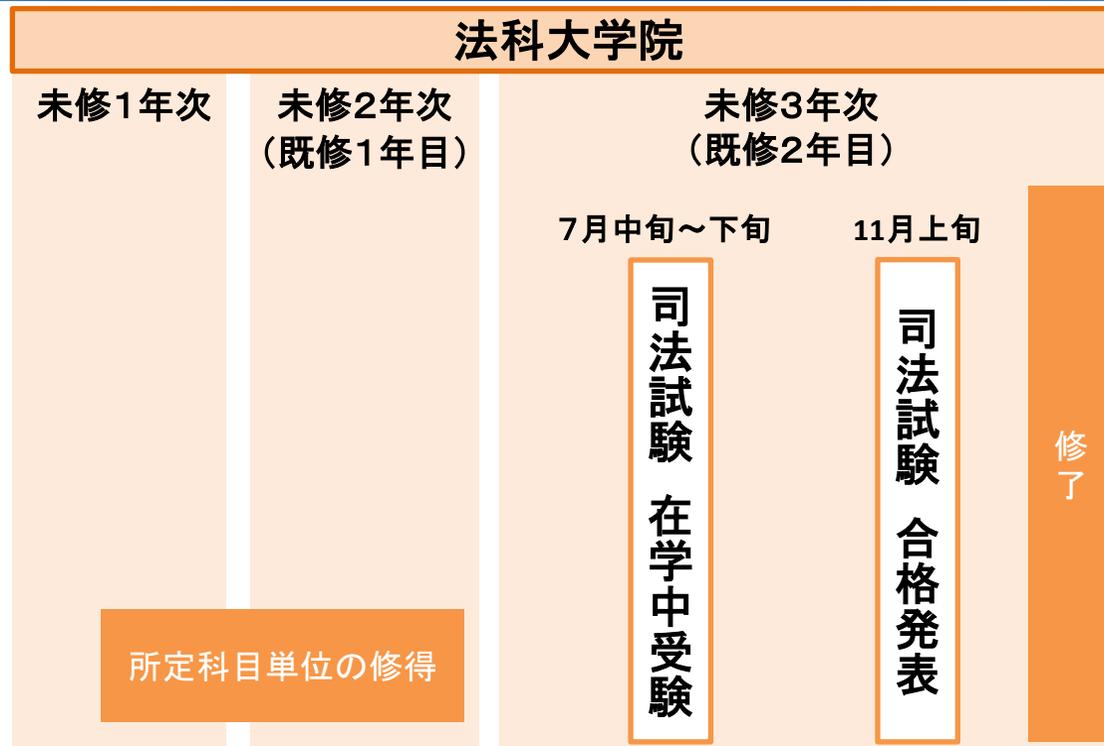


令和6年度 司法試験の在学中受験に向けた 教育課程の工夫等に関する調査

集計対象 : 令和6年4月1日時点で学生を募集している法科大学院を持つ大学（34校）

調査基準日 : 令和6年4月1日

司法試験在学中受験に関して



■在学中受験資格（司法試験法第4条第2項）

- 法科大学院の課程に在学
- 以下の2点につき、法科大学院を設置する大学の学長が認定
 - ①法務省令で定める所定科目単位の修得していること
 - ②1年以内に当該法科大学院の課程を修了する見込みがあること

【所定科目単位について】

- 法律基本科目 ※憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目
 - 〔基礎科目：主に未修1年次で学修するもの（法学既修者認定の対象） 30単位以上
 - 〔応用科目：主に未修2年次（既修1年目）以降に学修するもの 18単位以上
- 倒産法・租税法・経済法・知的財産法・労働法・環境法・国際関係法（公法系）・国際関係法（私法系） 4単位以上

-
1. **令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく
受験結果等について**
 2. **令和6年司法試験の在学中受験資格に基づく
出願者数等について**
 3. **カリキュラム編成方針について**
 4. **修了要件単位数、履修登録単位数の上限、
学事暦等について**
 5. **在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について**
 6. **司法試験の在学中受験導入による、
法科大学院教育への影響について**
-

1. 令和5年司法試験の在学中受験資格 に基づく受験結果等について

1. 令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について

	合計				既修				未修
	うち法曹コース修了者(早期卒業等)				うち法曹コース修了者(早期卒業等)				
		協定先	非協定先		協定先	非協定先			
最終年次在籍者数	1,672人	-	-	-	1,298人	-	-	-	374人
在学中受験資格(学長認定)取得者数	1,342人 80.26%	187人	158人	29人	1,111人 85.59%	187人	158人	29人	231人 61.76%
受験者数	1,066人 63.76%	162人	134人	28人	913人 70.34%	162人	134人	28人	153人 40.91%
合格者数	637人	107人	91人	16人	578人	107人	91人	16人	59人
合格率	59.76%	66.05%	67.91%	57.14%	63.31%	66.05%	67.91%	57.14%	38.56%

※下段(青字)は最終年次在籍者数に占める割合。

(募集停止校は除く)

(参考) 令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について (内訳)

大学名	令和5年度最終年次 在籍者数(人)【A】			令和5年司法試験の 在学中受験資格 取得者数(人)			令和5年司法試験の 在学中受験資格に基づく 受験者数(人)【A】			令和5年司法試験の 在学中受験資格に基づく 合格者数(人)【B】			合格率(%)【B/A】		
	既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修	
1.北海道大学	40	26	14	38	25	13	27	20	7	15	12	3	55.56	60.00	42.86
2.東北大学	44	40	4	28	26	2	23	22	1	10	10	0	43.48	45.45	-
3.筑波大学	45	9	36	17	6	11	9	4	5	5	4	1	55.56	100.00	20.00
4.千葉大学	21	13	8	5	3	2	4	3	1	1	1	0	25.00	33.33	-
5.東京大学	189	142	47	172	132	40	133	108	25	94	83	11	70.68	76.85	44.00
6.一橋大学	86	69	17	85	69	16	72	60	12	60	54	6	83.33	90.00	50.00
7.金沢大学	8	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
8.名古屋大学	44	37	7	43	37	6	31	27	4	20	19	1	64.52	70.37	25.00
9.京都大学	154	120	34	137	118	19	118	104	14	94	86	8	79.66	82.69	57.14
10.大阪大学	82	70	12	54	48	6	53	47	6	27	25	2	50.94	53.19	33.33
11.神戸大学	68	60	8	67	60	7	48	42	6	27	26	1	56.25	61.90	16.67
12.岡山大学	17	9	8	10	7	3	10	7	3	7	5	2	70.00	71.43	66.67
13.広島大学	24	11	13	14	5	9	5	2	3	0	0	0	-	-	-
14.九州大学	31	24	7	28	21	7	23	17	6	8	6	2	34.78	35.29	33.33
15.琉球大学	13	4	9	6	3	3	4	3	1	1	1	0	25.00	33.33	-
16.東京都立大学	24	23	1	24	23	1	18	18	0	3	3	0	16.67	16.67	-
17.大阪公立大学	16	8	8	13	8	5	8	4	4	4	3	1	50.00	75.00	25.00

(参考) 令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果等について (内訳)

大学名	令和5年度最終年次 在籍者数(人)			令和5年司法試験の 在学中受験資格 取得者数(人)			令和5年司法試験の 在学中受験資格に基づく 受験者数(人)【A】			令和5年司法試験の 在学中受験資格に基づく 合格者数(人)【B】			合格率(%)【B/A】		
	既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修		既修	未修	
18.学習院大学	14	10	4	9	8	1	6	6	0	2	2	0	33.33	33.33	-
19.慶應義塾大学	145	130	15	145	130	15	133	119	14	91	86	5	68.42	72.27	35.71
20.上智大学	18	10	8	14	10	4	10	8	2	5	4	1	50.00	50.00	50.00
21.専修大学	14	9	5	14	9	5	7	5	2	2	2	0	28.57	40.00	-
22.創価大学	12	8	4	12	8	4	11	7	4	5	4	1	45.45	57.14	25.00
23.中央大学	88	80	8	77	72	5	76	71	5	47	44	3	61.84	61.97	60.00
24.日本大学	39	29	10	32	24	8	21	18	3	5	4	1	23.81	22.22	33.33
25.法政大学	28	22	6	19	17	2	7	6	1	1	1	0	14.29	16.67	-
26.明治大学	48	40	8	22	22	0	19	19	0	5	5	0	26.32	26.32	-
27.早稲田大学	178	156	22	162	144	18	146	131	15	84	76	8	57.53	58.02	53.33
28.愛知大学	8	2	6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-
29.南山大学	4	2	2	1	1	0	1	1	0	1	1	0	100.00	100.00	-
30.同志社大学	56	49	7	45	39	6	21	19	2	10	10	0	47.62	52.63	-
31.立命館大学	50	43	7	36	30	6	15	12	3	0	0	0	-	-	-
32.関西大学	30	24	6	9	5	4	5	3	2	2	1	1	40.00	33.33	50.00
33.関西学院大学	24	14	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
34.福岡大学	10	0	10	2	0	2	2	0	2	1	0	1	50.00	-	50.00
計	1,672	1,298	374	1,342	1,111	231	1,066	913	153	637	578	59	59.76	63.31	38.56

2. 令和6年司法試験の在学中受験資格 に基づく出願者数等について

2. 令和6年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について

	合計				既修				未修
		うち法曹コース修了者				うち法曹コース修了者			
			協定先	非協定先			協定先	非協定先	
最終年次在籍者数	1,727人	-	-	-	1,288人	-	-	-	439人
在学中受験資格(学長認定)取得者数	1,469人 85.06%	317人	251人	66人	1,172人 90.99%	314人	249人	65人	297人 67.65%
受験者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合格者数	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合格率	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※下段(青字)は最終年次在籍者数に占める割合。

(募集停止校は除く)

(再掲) 令和5年司法試験の在学中受験資格に基づく受験結果について

	合計				既修				未修
		うち法曹コース修了者(早期卒業等)				うち法曹コース修了者(早期卒業等)			
			協定先	非協定先			協定先	非協定先	
最終年次在籍者数	1,672人	-	-	-	1,298人	-	-	-	374人
在学中受験資格(学長認定)取得者数	1,342人 80.26%	187人	158人	29人	1,111人 85.59%	187人	158人	29人	231人 61.76%
受験者数	1,066人 63.76%	162人	134人	28人	913人 70.34%	162人	134人	28人	153人 40.91%
合格者数	637人	107人	91人	16人	578人	107人	91人	16人	59人
合格率	59.76%	66.05%	67.91%	57.14%	63.31%	66.05%	67.91%	57.14%	38.56%

※下段(青字)は最終年次在籍者数に占める割合。

(募集停止校は除く)

(参考) 令和6年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について (内訳)

大学名	令和6年度最終年次在籍者数(人)【A】 (下段カッコ内は令和5年度の実績)		令和6年司法試験の 在学中受験資格に基づく出願者数(人)【B】 (下段カッコ内は令和5年度の実績)			最終年次在籍者に占める 在学中受験資格に基づく出願者の割合【B/A】 (下段カッコ内は令和5年度の実績)			
		既修者数	未修者数		既修者数	未修者数		既修者	未修者
1.北海道大学	35 (40)	23 (26)	12 (14)	27 (29)	18 (20)	9 (9)	77.1% (72.5%)	78.3% (76.9%)	75.0% (64.3%)
2.東北大学	50 (44)	39 (40)	11 (4)	36 (24)	31 (23)	5 (1)	72.0% (54.6%)	79.5% (57.5%)	45.5% (25.0%)
3.筑波大学	42 (45)	8 (9)	34 (36)	16 (10)	7 (4)	9 (6)	38.1% (22.2%)	87.5% (44.4%)	26.5% (16.7%)
4.千葉大学	23 (21)	13 (13)	10 (8)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	21.7% (23.8%)	23.1% (23.1%)	20.0% (25.0%)
5.東京大学	195 (189)	141 (142)	54 (47)	133 (155)	95 (125)	38 (30)	68.2% (82.0%)	67.4% (88.0%)	70.4% (63.8%)
6.一橋大学	81 (86)	61 (69)	20 (17)	76 (82)	59 (69)	17 (13)	93.8% (95.4%)	96.7% (100.0%)	85.0% (76.5%)
7.金沢大学	15 (8)	8 (5)	7 (3)	4 (1)	2 (1)	2 (0)	26.7% (12.5%)	25.0% (20.0%)	28.6% (0.0%)
8.名古屋大学	55 (44)	43 (37)	12 (7)	48 (33)	37 (28)	11 (5)	87.3% (75.0%)	86.0% (75.7%)	91.7% (71.4%)
9.京都大学	144 (154)	125 (120)	19 (34)	123 (128)	109 (111)	14 (17)	85.4% (83.1%)	87.2% (92.5%)	73.7% (50.0%)
10.大阪大学	81 (82)	59 (70)	22 (12)	69 (54)	52 (48)	17 (6)	85.2% (65.9%)	88.1% (68.6%)	77.3% (50.0%)
11.神戸大学	71 (68)	59 (60)	22 (8)	61 (50)	51 (44)	10 (6)	85.9% (73.5%)	86.4% (73.3%)	45.5% (75.0%)
12.岡山大学	17 (17)	6 (9)	11 (8)	12 (10)	6 (7)	6 (3)	70.6% (58.8%)	100.0% (77.8%)	54.5% (37.5%)
13.広島大学	22 (24)	16 (11)	6 (13)	5 (6)	4 (2)	1 (4)	22.7% (25.0%)	25.0% (18.2%)	16.7% (30.8%)
14.九州大学	43 (31)	26 (24)	17 (7)	39 (24)	24 (17)	15 (7)	90.7% (77.4%)	92.3% (70.8%)	88.2% (100.0%)
15.琉球大学	15 (13)	1 (4)	14 (9)	6 (4)	1 (3)	5 (1)	40.0% (30.8%)	100.0% (75.0%)	35.7% (11.1%)
16.東京都立大学	45 (24)	43 (23)	2 (1)	38 (20)	38 (20)	0 (0)	84.4% (83.3%)	88.4% (87.0%)	0.0% (0.0%)
17.大阪公立大学	21 (16)	9 (8)	12 (8)	15 (8)	9 (4)	6 (4)	71.4% (50.0%)	100.0% (50.0%)	50.0% (50.0%)

(参考) 令和6年司法試験の在学中受験資格に基づく出願者数等について (内訳)

大学名	令和6年度最終年次在籍者数(人)【A】 (下段カッコ内は令和5年度の実績)			令和6年司法試験の 在学中受験資格に基づく出願者数(人)【B】 (下段カッコ内は令和5年度の実績)			最終年次在籍者に占める 在学中受験資格に基づく出願者の割合【B/A】 (下段カッコ内は令和5年度の実績)		
		既修者数	未修者数		既修者数	未修者数		既修者	未修者
18.学習院大学	21 (14)	18 (10)	3 (4)	7 (8)	6 (7)	1 (1)	33.3% (57.1%)	33.3% (70.0%)	33.3% (25.0%)
19.慶應義塾大学	170 (145)	147 (130)	23 (15)	148 (133)	128 (119)	20 (14)	87.1% (91.7%)	87.1% (91.5%)	87.0% (93.3%)
20.上智大学	20 (18)	9 (10)	11 (8)	10 (10)	6 (8)	4 (2)	50.0% (55.6%)	66.7% (80.0%)	36.4% (25.0%)
21.専修大学	10 (14)	5 (9)	5 (5)	8 (7)	4 (5)	4 (2)	80.0% (50.0%)	80.0% (55.6%)	80.0% (40.0%)
22.創価大学	18 (12)	13 (8)	5 (4)	18 (11)	13 (7)	5 (4)	100.0% (91.7%)	100.0% (87.5%)	100.0% (100.0%)
23.中央大学	88 (88)	78 (80)	10 (8)	81 (77)	71 (72)	10 (5)	92.0% (87.5%)	91.0% (90.0%)	100.0% (62.5%)
24.日本大学	43 (39)	33 (29)	10 (10)	33 (26)	27 (20)	6 (6)	76.7% (66.7%)	81.8% (69.0%)	60.0% (60.0%)
25.法政大学	30 (28)	22 (22)	8 (6)	11 (8)	10 (6)	1 (2)	36.6% (28.6%)	45.4% (27.3%)	12.5% (33.3%)
26.明治大学	30 (48)	19 (40)	11 (8)	19 (19)	17 (19)	2 (0)	63.3% (39.6%)	89.5% (47.5%)	18.2% (0.0%)
27.早稲田大学	146 (178)	127 (156)	19 (22)	134 (150)	119 (134)	15 (16)	91.8% (84.3%)	93.7% (85.9%)	78.9% (72.7%)
28.愛知大学	11 (8)	3 (2)	8 (6)	3 (0)	1 (0)	2 (0)	27.3% (0.0%)	33.3% (0.0%)	25.0% (0.0%)
29.南山大学	8 (4)	6 (2)	2 (2)	4 (1)	4 (1)	0 (0)	50.0% (25.0%)	66.7% (50.0%)	0.0% (0.0%)
30.同志社大学	62 (56)	52 (49)	10 (7)	47 (23)	41 (21)	6 (2)	75.8% (41.1%)	78.8% (42.9%)	60.0% (28.6%)
31.立命館大学	55 (50)	49 (43)	6 (7)	33 (16)	32 (13)	1 (3)	60.0% (32.0%)	65.3% (30.2%)	16.7% (42.9%)
32.関西大学	26 (30)	17 (24)	9 (6)	5 (6)	3 (4)	2 (2)	19.2% (20.0%)	17.6% (16.7%)	22.2% (33.3%)
33.関西学院大学	22 (24)	10 (14)	12 (10)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	9.1% (0.0%)	10.0% (0.0%)	8.3% (0.0%)
34.福岡大学	12 (10)	0 (0)	12 (10)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	16.7% (20.0%)	0.0% (0.0%)	16.7% (20.0%)
計	1,727 (1,672)	1,288 (1,297)	439 (367)	1,240 (1,140)	982 (965)	258 (175)	71.8% (68.5%)	76.2% (74.4%)	58.7% (47.7%)

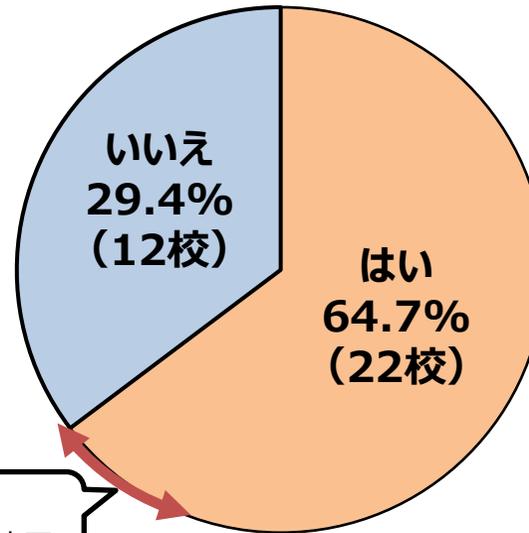
※数字が前年から増加している場合は赤字、減少している場合は青字

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

3. カリキュラム編成方針について

3.カリキュラム編成方針について

(1-1) 令和6年度入学カリキュラム(令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用)において、在学中受験に必要な所定科目単位(合計52単位以上)は、2年次後期までに必修又は選択必修で履修することとしていますか。



「はい」と回答した大学(22校)のうち
2校(6%)は令和6年度カリキュラムから適用

「いいえ」と回答した大学(12校)のうち

○在学中受験希望者に対して2年次までに所定科目単位を履修するよう指導する(12校)

(指導方法の内訳)

- ・シラバスや募集要領などで記載し、かつ、個別に該当学生に指導する(7校)
- ・シラバスや募集要領などで記載する(3校)
- ・個別に該当学生に指導する(2校)

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(1) 修了要件単位数、各科目群の最低限必要な修得単位数

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R6) : 「令和6年度入学カリキュラム (令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用)」

大学名	修了要件			各科目群																	
				計			法律基本科目 (基礎)			法律基本科目 (応用)			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	94	95	95	86	88	88	32	32	32	26	26	26	12	14	14	4	4	4	12	12	12
2.東北大学	96	96	96	92	92	92	30	30	30	28	28	28	14	14	14	4	4	4	16	16	16
3.筑波大学	93	93	93	93	93	93	38	38	38	24	24	24	14	14	14	4	4	4	13	13	13
4.千葉大学	95	95	95	84	84	84	38	38	38	20	20	20	10	10	10	4	4	4	12	12	12
5.東京大学	93	93	93	80	80	80	30	30	30	24	24	24	10	10	10	4	4	4	12	12	12
6.一橋大学	95	93	93	95	93	93	38	38	38	22	22	22	12	12	12	7	7	7	16	14	14
7.金沢大学	104	98	98	92	92	92	42	42	42	24	24	24	10	10	10	4	4	4	12	12	12
8.名古屋大学	98	98	98	94	94	94	32	32	32	30	30	30	12	12	12	4	4	4	16	16	16
9.京都大学	96	96	96	82	84	84	28	30	30	28	28	28	10	10	10	4	4	4	12	12	12
10.大阪大学	98	98	98	88	88	88	34	34	34	24	24	24	14	14	14	4	4	4	12	12	12
11.神戸大学	100	100	100	88	94	94	34	37	37	28	29	29	10	12	12	4	4	4	12	12	12
12.岡山大学	97	97	97	77	85	85	34	34	34	24	24	24	11	11	11	4	4	4	4	12	12
13.広島大学	103	99	98	99	95	88	31	30	30	37	34	32	10	10	10	9	9	4	12	12	12
14.九州大学	96	96	96	94	92	92	32	32	32	32	32	32	14	12	12	4	4	4	12	12	12
15.琉球大学	94	94	94	93	93	93	37	37	37	24	24	24	10	10	10	4	4	4	18	18	18
16.東京都立大学	97	97	97	84	84	97	32	32	32	26	26	26	10	10	10	4	4	4	12	12	12
17.大阪公立大学	97	97	97	87	87	87	37	37	37	20	20	20	12	12	12	4	4	4	14	14	14

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

大学名	修了要件			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	105	100	100	98	92	92	36	34	34	32	32	32	10	10	10	4	4	4	16	12	12
19.慶應義塾大学	100	94	94	85	82	82	32	32	32	27	24	24	10	10	10	4	4	4	12	12	12
20.上智大学	101	100	100	96	95	95	30	32	32	37	34	34	13	13	13	4	4	4	12	12	12
21.専修大学	108	108	107	96	96	95	38	38	37	30	30	30	12	12	12	4	4	4	12	12	12
22.創価大学	103	98	98	96	93	93	37	35	35	31	30	30	10	10	10	4	4	4	14	14	14
23.中央大学	96	93	93	94	82	82	34	31	31	27	25	25	10	10	10	6	4	4	17	12	12
24.日本大学	94	96	96	88	90	90	28	30	30	32	32	32	12	12	12	4	4	4	12	12	12
25.法政大学	102	102	102	96	98	98	34	34	34	30	32	32	12	12	12	4	6	6	16	14	14
26.明治大学	103	96	96	86	90	90	42	38	38	18	26	26	10	10	10	4	4	4	12	12	12
27.早稲田大学	102	93	93	82	88	88	30	30	30	38	32	32	10	10	10	4	4	4	※1	12	12
28.愛知大学	108	108	108	98	98	98	44	44	44	28	28	28	10	10	10	4	4	4	12	12	12
29.南山大学	102	102	102	86	86	86	38	38	38	18	18	18	14	14	14	4	4	4	12	12	12
30.同志社大学	96	96	96	85	85	85	30	30	30	27	27	27	10	10	10	6	6	6	12	12	12
31.立命館大学	98	98	98	94	94	94	36	36	36	24	24	24	12	12	12	6	6	6	16	16	16
32.関西大学	100	100	100	94	94	94	34	34	34	26	26	26	12	12	12	6	6	6	16	16	16
33.関西学院大学	100	100	100	98	98	98	40	40	40	24	24	24	12	12	12	6	6	6	16	16	16
34.福岡大学	98	98	98	89	89	89	44	44	44	18	18	18	11	11	11	4	4	4	12	12	12
平均	98.9	97.6	97.5	90.3	90.2	90.4	34.9	34.8	34.8	26.7	26.5	26.4	11.3	11.4	11.4	4.5	4.5	4.4	13.2	13.0	13.0

※専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第23条において、法科大学院の課程の修了要件について、以下のとおり規定。

第二十三条 法科大学院の課程の修了の要件は、第十五条第一項の規定にかかわらず、次の各号のいずれにも該当することとする。

一 法科大学院に三年（三年を超える標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、九十三単位以上を修得すること。

二 第二十条の三第一項各号に規定する科目について、次に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定める単位数を修得すること。

イ 法律基本科目の基礎科目 三十単位以上

ロ 法律基本科目の応用科目 十八単位以上

ハ 法律実務基礎科目 十単位以上

ニ 基礎法学・隣接科目 四単位以上

ホ 展開・先端科目 十二単位以上（選択科目に係る四単位以上を含む。）

2 (略)

※前年と比較して、単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

※1 法律実務基礎科目、基礎法学・隣接科目及び展開・先端科目の合計で34単位以上

(単位：単位)

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(2) 履修登録単位数の上限

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R6) : 「令和6年度入学カリキュラム (令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用)」

大学名	1年次			2年次 (既修1年目)			3年次 (既修2年目)		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
2.東北大学	32	32	30	36	36[44]	36[44]	44	44	44
3.筑波大学	36	36	36	36	36[40]	40	44	44	44
4.千葉大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
5.東京大学	34	34	34	36	36[42]	36[42]	44	44	44
6.一橋大学	33	33	33	36	36	36	40	36	36
7.金沢大学	42	42	42	36	36[44]	36[44]	44	44	44
8.名古屋大学	38	38	38	36	36	36	44	44	44
9.京都大学	36	36	36	36	38	38	44	44	44
10.大阪大学	40	40	40	36	36	36	40	40	40
11.神戸大学	40	37	37	36	36[38]	36[38]	44	44	44
12.岡山大学	40	40	40	36	36	36	42	42	42
13.広島大学	36	36	36	37	37	37	44	44	44
14.九州大学	38	38	38	36	36	36	40	40	40
15.琉球大学	38	38	38	36	36	36	44	44	44
16.東京都立大学	38	40	40	42(40)	38[44]	38[44]	44	44	44
17.大阪公立大学	39	39	39	36	44	44	38	44	44

大学名	1年次			2年次 (既修1年目)			3年次 (既修2年目)		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	34	36	36	36	36	36	44	44	44
19.慶應義塾大学	36	36	36	36	36[44]	36[44]	44	44	44
20.上智大学	36	36	36	36	36[44]	36[44]	44	44	44
21.専修大学	39	39	39	38	38	38	44	44	44
22.創価大学	44	44	44	36	36[44]	36[44]	44	44	44
23.中央大学	38	36	36	36	36	36	42	44	44
24.日本大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
25.法政大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
26.明治大学	42	38	38	36(40)	36(44)[44]	36(44)[44]	44	44	44
27.早稲田大学	36	36	36	36	36	36	44	44	44
28.愛知大学	44	44	44	36	36	36	36	36	36
29.南山大学	36	36	36	38	38	38	28	28	28
30.同志社大学	36	36	36	36	36[44]	36[44]	44	44	44
31.立命館大学	37	37	37	36(38)	36(38)[44]	36(38)[44]	44	44	44
32.関西大学	36	36[44]	36[44]	36	36[44]	36[44]	44	44	44
33.関西学院大学	42	42	42	36	36[40]	36[40]	44	44	44
34.福岡大学	36[40]	36[40]	36[40]	36[42]	36[44]	36[44]	36[44]	36[44]	36[44]

※履修科目の登録単位数の上限は、専門職大学院設置基準 (平成15年文部科学省令第16号) 第20条の8において、1年につき36単位を標準とする旨が定められている。 (単位: 単位)
 従来より、1・2年次で法律基本科目の単位数を増加する場合、又は3年次については、44単位を上限とする運用が認められているが、加えて、R元年10月の省令改正 (令和4年10月施行) により、法曹コース修了者等法科大学院が認めた者について、履修登録単位数の上限を44単位まで拡大することが可能である旨が規定された。
 ※表は、前年度と比較して、単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字としている。また、増加の目的が()は法律基本科目の単位数を増加する場合、[]は法科大学院が認めた者 (例: 法曹コース修了者) の場合を示している。
 ※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成 17

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(3) 学事暦

在学中受験対応前 (R2) : 「令和2年度入学カリキュラム (令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R5) : 「令和5年度入学カリキュラム (令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用)」

在学中受験対応後 (R6) : 「令和6年度入学カリキュラム (令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用)」

大学名	1年次			2年次 (既修1年目)			3年次 (既修2年目)			大学名	1年次			2年次 (既修1年目)			3年次 (既修2年目)		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6		R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	通年 クォーター	通年 クォーター	通年 クォーター	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	18.学習院大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後
2.東北大学	前/後	19.慶應義塾大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)	前/後 (※)								
3.筑波大学	通年 クォーター	20.上智大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
4.千葉大学	前/後	21.専修大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
5.東京大学	前/後	前/後 (※)	22.創価大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)							
6.一橋大学	通年 クォーター	23.中央大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後	前/後 (※)	前/後 (※)								
7.金沢大学	前/後	24.日本大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
8.名古屋大学	前/後	前/後 (※)	25.法政大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後							
9.京都大学	前/後	26.明治大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
10.大阪大学	前/後 (※)	27.早稲田大学	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)	前/後 (※)								
11.神戸大学	前/後	28.愛知大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
12.岡山大学	前/後	29.南山大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
13.広島大学	通年 クォーター	30.同志社大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
14.九州大学	前/後	前/後 (※)	31.立命館大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後							
15.琉球大学	前/後	前/後 (※)	32.関西大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後							
16.東京都立大学	前/後	33.関西学院大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								
17.大阪公立大学	前/後	34.福岡大学	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後	前/後								

「前/後」=前期/後期制、「通年クォーター」=通年クォーター制

※ 前期/後期制を基礎としつつ、一部の科目はクォーター制

※ 前年から変更があった箇所は赤字。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(4) 3年次前期（クォーター制の場合は第2クォーター）の期末試験の実施時期

在学中受験対応前（R2）：「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用）」

在学中受験対応後（R5）：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」

在学中受験対応後（R6）：「令和6年度入学カリキュラム（令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用）」

大学名	R2	R5	R6	
			司法試験の前か後か	司法試験の前か後か
1.北海道大学	8月上旬～中旬	8月上旬～中旬	後	8月上旬～中旬
2.東北大学	8月上旬	8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
3.筑波大学	6月末、8月中旬、9月末	6月末、8月中旬、9月末	前後	6月末、8月中旬、9月末
4.千葉大学	8月下旬	8月上旬	後	8月上旬
5.東京大学	7月中旬～8月上旬	7月中旬～8月上旬	後	7月中旬～8月上旬
6.一橋大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
7.金沢大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
8.名古屋大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
9.京都大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
10.大阪大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
11.神戸大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
12.岡山大学	8月上旬	8月上旬	後	8月上旬
13.広島大学	8月上旬～中旬	8月上旬～中旬	後	8月
14.九州大学	7月下旬～8月上旬	(一部6月中旬)8月上旬	前後	(一部6月中旬)8月上旬
15.琉球大学	7月下旬～8月上旬	8月上旬	後	8月上旬
16.東京都立大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
17.大阪公立大学	8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬

大学名	R2	R5	R6	
			司法試験の前か後か	司法試験の前か後か
18.学習院大学	7月中旬～下旬	7月下旬	後	7月下旬
19.慶應義塾大学	7月下旬	必修6月上旬 選択7月下旬	前後	必修6月上旬 選択7月下旬
20.上智大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
21.専修大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
22.創価大学	7月下旬	法律基本科目 6月上旬 その他7月下旬	前後	法律基本科目 6月上旬 その他7月下旬
23.中央大学	7月下旬～8月上旬	(一部5月下旬) 7月下旬～8月上旬	前後	(一部5月下旬) 7月下旬～8月上旬
24.日本大学	7月中旬～下旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
25.法政大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
26.明治大学	7月下旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬
27.早稲田大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
28.愛知大学	7月下旬～8月上旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
29.南山大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
30.同志社大学	7月下旬～8月中旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬
31.立命館大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
32.関西大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
33.関西学院大学	7月下旬	7月下旬	後	7月下旬
34.福岡大学	7月下旬	7月下旬～8月上旬	後	7月下旬～8月上旬

※ 前年から変更があった箇所は赤字。

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

(5) 3年次前期（クォーター制の場合は第2クォーター）の必修科目の配置

在学中受験対応前（R2）：「令和2年度入学カリキュラム（令和2年度入学の未修者、令和3年度入学の既修者に適用）」

在学中受験対応後（R5）：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」

在学中受験対応後（R6）：「令和6年度入学カリキュラム（令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用）」

大学名	必修科目の配置の有無			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
1.北海道大学	○	○	○	12	6	6	0	0	0	4	4	4	8	2	2	0	0	0	0	0	0
2.東北大学	○	×	×	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
3.筑波大学	○	○	○	5	1	1	0	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.千葉大学	○	○	○	12	6	6	0	0	0	6	0	0	6	6	4	0	0	0	0	0	0
5.東京大学	○	○	○	6	4	4	0	0	0	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6.一橋大学	○	○	○	18	15	15	0	0	0	3	4	4	5	3	3	0	0	0	10	8	8
7.金沢大学	○	○	○	10	6	6	0	0	0	8	4	4	2	2	2	0	0	0	0	0	0
8.名古屋大学	○	○	○	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0
9.京都大学	○	○	○	10	6	6	0	0	0	10	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10.大阪大学	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11.神戸大学	○	○	○	2	3	3	0	0	0	2	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12.岡山大学	○	○	○	5	3	3	0	0	0	2	0	0	3	3	3	0	0	0	0	0	0
13.広島大学	○	○	○	7	4	5	0	0	0	3	0	1	4	4	4	0	0	0	0	0	0
14.九州大学	○	○	○	11	11	11	0	0	0	6	6	6	5	5	5	0	0	0	0	0	0
15.琉球大学	○	○	○	3	3	3	0	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0
16.東京都立大学	○	×	×	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17.大阪公立大学	○	○	○	4	4	4	0	0	0	0	0	0	4	4	4	0	0	0	0	0	0

(単位：単位)

(次ページ続く)

4. 修了要件単位数、履修登録単位数の上限、学事暦等について

大学名	必修科目の配置の有無			各科目群																	
				計			法律基本科目（基礎）			法律基本科目（応用）			法律実務基礎科目			基礎法学・隣接科目			展開・先端科目		
	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6	R2	R5	R6
18.学習院大学	○	○	○	12	12	12	0	0	0	6	6	6	6	6	6	0	0	0	0	0	0
19.慶應義塾大学	○	×	×	13	0	0	0	0	0	8	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
20.上智大学	○	○	○	8	1	1	0	0	0	6	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
21.専修大学	○	○	○	12	未定	未定	0	0	0	6	未定	未定	6	未定	未定	0	0	0	0	0	0
22.創価大学	○	○	○	14	3	7	0	0	0	8	3	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0
23.中央大学	○	×	×	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24.日本大学	○	○	○	6	4	4	0	0	0	6	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25.法政大学	○	○	○	4	3	3	0	0	0	2	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
26.明治大学	○	○	○	5	3	3	1	0	0	3	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0
27.早稲田大学	○	○	○	8(10)	2(4)	2(4)	0	0	0	6	0	0	2(4)	2(4)	2(4)	0	0	0	0	0	0
28.愛知大学	○	○	○	8	8	8	0	0	0	6	6	6	2	2	2	0	0	0	0	0	0
29.南山大学	○	○	○	10	10	10	0	0	0	4	4	4	6	6	6	0	0	0	0	0	0
30.同志社大学	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31.立命館大学	○	○	○	8	8	8	0	0	0	6	6	6	2	2	2	0	0	0	0	0	0
32.関西大学	○	○	○	4	4	4	0	0	0	2	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
33.関西学院大学	○	○	○	2	2	2	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34.福岡大学	○	○	○	2	2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	0	0
配置あり/平均	32校	28校	28校	7.1 (7.2)	4.2 (4.2)	4.3 (4.4)	0.0	0.0	0.0	4.2	2.2	2.3	2.6 (2.7)	1.7 (1.8)	1.6 (1.7)	0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	0.2

※前年度と比較して、単位数が増加しているものは赤字、減少しているものは青字。

※ ()は2年次までの修得状況により異なる場合のもの。

※平均については「未定」と記載した大学を除いて算出。

(単位：単位)

5. 在学中受験を踏まえた工夫や 配慮等について

※各大学の回答（自由記述）のポイントを事務局にてとりまとめ。

※在学中受験を踏まえた工夫や配慮等に限り、在学中受験の導入以前から実施している工夫や配慮等は対象から除外。

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえた工夫や配慮

在学中受験が始まることを踏まえ、各項目で何らかの工夫や配慮を行っているか、行っている場合はいつのカリキュラムから変更したか

R3：「令和3年度入学カリキュラム（令和3年度入学の未修者、令和4年度入学の既修者に適用）」

R4：「令和4年度入学カリキュラム（令和4年度入学の未修者、令和5年度入学の既修者に適用）」

R5：「令和5年度入学カリキュラム（令和5年度入学の未修者、令和6年度入学の既修者に適用）」

R6：「令和6年度入学カリキュラム（令和6年度入学の未修者、令和7年度入学の既修者に適用）」

※括弧付きの場合は、入学カリキュラムに関係なく、当該年度在籍者に適用

大学名	修了要件 単位数	各科目群の 最低限修得が 必要な単位数	履修登録 単位数の上限	学事暦	開講日	期末試験の 実施時期	授業科目の 配置	授業時間の 長さ・授業回数	左記以外
1.北海道大学	-	-	-	-	R3	-	R3	-	-
2.東北大学	-	-	R3	-	R4、(R6)	-	R4	-	R3
3.筑波大学	-	-	R4	-	-	-	R4	R5	-
4.千葉大学	-	-	-	-	-	-	R4、(R6)	-	R4、(R5)
5.東京大学	-	-	(R4)	-	(R5)	-	(R4)	-	(R5)
6.一橋大学	-	R3	-	-	R5	-	R3	-	-
7.金沢大学	R3	-	R3	-	-	(R4)	R3	-	-
8.名古屋大学	-	-	-	-	R3、R4	R3	R3	-	-
9.京都大学	-	R3	R3	-	-	-	R3	R3	-
10.大阪大学	-	-	-	-	-	-	R4	R4	R4
11.神戸大学	-	-	R4	-	(R5)	-	R4	R4	(R5)
12.岡山大学	-	R3	-	-	-	-	R3	-	R3
13.広島大学	R5	R5	-	-	R5	(R5)	R4	-	-
14.九州大学	-	R5	-	-	R5	R4、R5	R5	-	-
15.琉球大学	-	-	-	-	R3	-	R3	-	R5
16.東京都立大学	-	-	R3	-	R3	R3	R3	R3	-
17.大阪公立大学	-	-	R4	-	R5	-	-	-	R4

※赤字は今年度の調査で新規に回答があったもの。(次ページ続く)

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

大学名	修了要件 単位数	各科目群の 最低限修得が 必要な単位数	履修登録 単位数の上限	学事暦	開講日	期末試験の 実施時期	授業科目の 配置	授業時間の 長さ・授業回数	左記以外
18.学習院大学	R3	R3	R3	(R6)	-	-	R4	R4	-
19.慶應義塾大学	R3	R3	-	-	R3	R3	R3	-	-
20.上智大学	R3	R3	R3	-	-	-	R3	-	-
21.専修大学	-	-	-	-	-	-	(R5)	-	-
22.創価大学	R3	R3	R3	-	-	R3	R3	R3	-
23.中央大学	R3	R3	R3	-	R5	R5	R5	-	-
24.日本大学	-	-	-	-	(R5)	(R5)	(R4)	-	-
25.法政大学	-	-	-	-	-	-	R3	-	-
26.明治大学	R5	R5	-	-	R5、(R6)	R5	R5	-	-
27.早稲田大学	R3	R3	-	(R6)	R3	-	R3	R3	-
28.愛知大学	-	R3	R3	-	-	-	R3	-	-
29.南山大学	-	-	-	-	-	-	R4	-	R4
30.同志社大学	-	-	R4	(R6)	-	-	R4	-	-
31.立命館大学	-	-	R3	-	(R5)	-	-	-	R3
32.関西大学	-	-	R3	-	R5	-	R4	-	-
33.関西学院大学	-	-	R5、(R6)	-	-	-	R4	-	R4
34.福岡大学	-	-	R3	-	(R6)	-	R3	-	-
在学中受験を踏まえ 変更した大学数	9	13	18	3	19	10	32	8	11

(単位：校)

※赤字は今年度の調査で新規に回答があったもの。

※文部科学省「法科大学院関係状況調査」より作成

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(1) 在学中受験が始まることを踏まえたカリキュラム上の工夫や配慮の例

<修了要件単位数>

- 学生の授業負担軽減のため、修了要件単位数を削減。(金沢、広島、学習院、慶應義塾、創価、中央、明治、早稲田)

<各科目群の最低限修得が必要な単位数>

- 学生の授業負担軽減のため、一部の科目群の最低限修得が必要な単位数を削減。(広島、慶應義塾、学習院、創価)
- 学生が柔軟に科目を選択できるようにするため、一部の科目群の最低限修得が必要な単位数を削減し、修了要件を満たすために科目群を問わず修得が必要な単位数(修了要件単位数と各科目群の最低限修得が必要な単位数の合計の差分)を増加。(岡山、九州、中央)

<履修登録単位数の上限>

- 在学中受験資格取得を可能とするため、法科大学院が認める者について、未修2年次(既修1年目)の履修登録単位数の上限を引き上げ。(東北、筑波、東京、金沢、神戸、東京都立、大阪公立、上智、明治、創価、同志社、立命館、関西、関西学院、福岡)
- 司法試験後に修了要件となる科目を多く履修できるようにするため、3年次の履修登録単位数の上限を引き上げ。(中央)

<開講日>

- 2学期制を前提としつつも、3年次前期の一部の科目について司法試験前に授業を終えられるようにするため、開講頻度等を工夫。(例：週1回開講から週2回開講に変更、授業開始日を早める)(東京、一橋、神戸、名古屋、九州、慶應義塾、中央)
- 司法試験期間に授業を開講しないよう措置。(例：授業実施週から除外、3年次の授業は休講とし別日に開講、授業時間を90分から105分に増やして授業回数を減らす)(北海道、東北、神戸、広島、琉球、東京都立、大阪公立、学習院、中央、日本、明治、早稲田、立命館、関西)
- 外部模試(4月の平日)の実施時期に授業を開講しないよう措置。(東北)
- 司法修習開始に合わせ、全学の日程とは別に司法研究科の修了式・学位授与式を実施。(中央、同志社)

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

<期末試験の実施時期>

- 3年次前期の一部の科目について、開講頻度等を工夫し、司法試験前（5月下旬、6月上中旬）に期末試験を実施。（名古屋、九州、慶應義塾、創価、中央）
- 司法試験前に前期の授業を終了し、司法試験後に期末試験を実施。（東京都立）
- 司法試験期間に授業を開講しないことから、定期試験の日程を後ろ倒しにして実施。（日本、明治）

<授業の配置>

- 在学中受験の所定科目単位を未修2年次（既修1年目）までに修得できるよう、授業科目の配当年次の変更（例：未修3年次→未修2年次）や配当年次の拡大（例：未修3年次→未修2年次・3年次）等を実施。（東北、筑波、千葉、一橋、金沢、京都、大阪、神戸、岡山、東京都立、大阪公立、慶應義塾、上智、専修、創価、日本、法政、南山、同志社、関西、関西学院、福岡）
- 在学中受験を予定している学生の負担軽減（や司法修習との円滑な接続）のため、
 - 一部の法律実務基礎科目を3年次前期から3年次後期に配置変更（北海道、千葉、大阪、琉球、東京都立、慶應義塾、創価、明治、早稲田、同志社、関西学院（希望者のみ）、福岡）
 - 一部の展開・先端科目（司法試験選択科目を除く）を3年次前期から3年次後期に配置変更（名古屋、創価）
 - 必修科目と3年次生が主として履修する科目を3年次前期から3年次後期に配置変更（東北）
 - 一部の選択必須科目を3年次前期の後半から3年次前期の前半に配置変更（広島）
 - 2単位科目を1単位科目2つに分割し、学期毎に開講する形に配置変更（学習院）

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

<その他>

- 3年次のエクスターンシップの研修期間を司法試験前から司法試験後に変更（千葉）
- 3年次の海外エクスターンシップや課題研究科目を秋冬学期での開講に変更。（大阪）
- 司法試験実施日の欠席を、制度的に公欠として認める。（千葉）
- 司法試験期間中となる授業日について、休講として別に補講を行う、オンデマンド方式で実施するなど、司法試験受験により出席できないことによる不利益が生じないような措置を実施。（東京）
- 在学中受験を予定している学生への配慮として、3年次前期は週3日授業を入れるだけでも修了可能となるような時間割を編成。（神戸）
- 論述を中心に専門的学識の応用能力を涵養するため、既存の総合演習科目2科目4単位を再編し、3年次の選択必修科目として、公法・民事法・刑事法3系の応用演習3科目6単位を開設。（岡山）
- 3年次配当科目（選択科目含む）の担当教員に対し、7月1日から司法試験終了までの間における課題の出題等について配慮を要請。（琉球）
- 既修者への前倒し受講科目制度の導入（立命館）

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(2) 在学中受験が始まることを踏まえた学生指導の方針、工夫や配慮の例

<3年次の履修登録に係る指導>

- ガイダンス、オリエンテーション、個別相談等を通じた指導を実施。（筑波、名古屋、東京都立、早稲田、立命館）
- R5に在学中受験をした学生の状況も踏まえ、3年次前期の履修を過度に控えるような指導はせず、授業と受験を両立した環境を構築。（東北）
- 3年次前期に履修する科目を必修科目に抑え、司法試験に向けての自主学習の時間を確保できるよう工夫するよう指導。（愛知）
- 法律実務基礎科目（選択科目）は、司法試験後（在学中受験者）や3年次後期（修了後受験者）に積極的に履修するよう指導。（東京都立）
- 在学中受験を予定している学生向けの科目（選択必修またはクラス分け）を設定し、履修を勧奨。（上智）
- 大学独自の「特別演習」（思考力・論理力・表現力を訓練する少人数演習）を履修するよう勧奨。（関西学院）
- 大学独自の「司法試験在学中受験プログラム」の履修生に対し、司法試験の勉学に役立つ演習科目の履修を推奨。また、選択科目については、後期に履修する等工夫するよう助言。（福岡）

<司法試験後～合格発表前の工夫>

- ガイダンス、個別相談、受験者との意見交換等を通じた指導を実施。（上智、中央、明治）
- 在学中受験資格での合格は修了が要件であることを周知し、3年次後期に開講されている必修科目の単位を確実に修得できるよう指導を実施。（東北）
- 修了に向け、選択科目や法律実務基礎科目の必修科目の履修を指導するとともに、司法試験受験科目の力を落とさないようにするための学修の継続を指導（福岡）
- 法科大学院での学修が疎かにならないよう、実務法曹としての活動を具体的にイメージさせるための説明会等を実施するとともに、3年次後期の実務系科目の授業内容と有機的に連携。（一橋）
- 法曹三者のみならず、あらゆる業界での働き方について幅広く紹介・相談を実施できるよう、就職情報説明会を開催。（早稲田）
- 3年次後期開始時に、在学中受験を行った者を対象に、合格した場合・不合格となった場合のそれぞれに合わせた履修指導ガイダンスを実施。（中央）

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

<合格発表後の学生指導>

- 合格した学生に対しては、修了とその後の司法修習に向け、学修を進めるよう指導。不合格の学生に対しては、試験結果の振り返りや反省点を洗い出すとともに、気持ちを切り替えて次年度以降の受験の準備を進めることができるよう指導・助言。（東北）
- 合格した学生に対しては、モチベーションを低下させないよう実務法曹として必要な能力を身に着けることの必要性を指導・助言。不合格の学生に対しては、フォローアップ科目（1単位）を設定。（一橋）
- 個別面談を実施し、在学中受験資格での合格は修了が要件であるため、修了に向け、継続的学習を促す。（愛知、大阪）
- 在学中受験資格での合格は修了が要件であるため、修了に向け、選択科目や法律実務基礎科目の必修科目の学修に力を注ぐよう指導。（福岡）
- 従来から合格者に対しては、司法修習に関する注意事項等を実務家教員から指導する場を設けていることから、在学中受験の合格者についても参加を勧奨。不合格者に対しては、担任や演習科目担当者からフォローを実施。（上智）
- 実務家による司法修習前セミナーを開催し、司法研修所に入所前にスムーズに研修に入れるよう事前指導を実施。（早稲田）

<上記以外の学生指導>

- 半期ごとに在籍する学生全員と個別面談を行い、学修及び生活の状況を確認するとともに授業やカリキュラム等への要望をきめ細かく聴取し、必要な対応を実施。（岡山）
- 司法試験受験前の5月に、専任教員、実務講師による個別面談、学修相談の機会を提供。（中央）
- 2年次の履修登録前にガイダンスを実施し、在学中受験を希望する場合の履修上の注意事項について説明。また、2年次後期の成績発表後に、3年次に進級が確定した学生に対し在学中受験の希望を確認した上で、在学中受験を希望する学生に対して個別面談を実施し、3年次の学習計画について指導・助言。（愛知）
- 司法試験の実施時期を踏まえ、司法試験論文式問題解説会の開催時期を3月に変更。（金沢）
- 3年次前期も3年次向け配当科目を開講し、在学中受験をしない学生の履修スケジュールに空白期間が生じないよう配慮（東北、中央）
- 3年次後期に修了後受験を予定する学生を対象とした演習科目を設置することで、継続的なフォローを実施。（一橋）

5. 在学中受験を踏まえた工夫や配慮等について

(3) 在学中受験を希望しない学生に対するカリキュラム上の工夫や配慮の例

- 在学中受験を予定していない学生に対する個別指導として、司法試験前後において選択必修科目としてアウトプット系の演習科目を設置し、それら科目の成績評価を基に個別面談を実施し、各学生の3年次後期開講科目の履修が効果的なものとなるよう指導。(広島)
- 在学中受験を予定していない学生が、未修2年次(既修1年目)に法律基本科目の履修に重点を置くことができるよう、カリキュラム自体は全入学者が在学中受験可能となるように設計しつつも、司法試験選択科目を3年次においても履修できるよう措置。(東京都立)
- 選択必修科目として、公法・民事法・刑事法の法律基本科目を開講して、春学期第2クォーターでその履修を可能とするよう措置。(慶應義塾)
- 授業科目の一部について、在学中受験を希望する学生とそれ以外の学生でクラス分けを行い、学生の習熟度に応じた教育内容となるよう工夫。(上智)
- 未修者に対し、2年次における消化不良を回避することを目的として、2年次必修科目の一部を3年次に繰り延べることができる「未修者2年次必修科目履修制度」を希望する学生に適用。(早稲田)
- 未修者を中心としたカリキュラムとしていることを前提として、「司法試験在学中受験プログラム」を導入し、在学中受験の希望に応えられるよう工夫(福岡)
- 未修者2年次(既修者1年目)における展開・先端科目の司法試験選択科目の履修について、
 - 司法試験選択科目4単位の履修に代えて、後期に実務基礎科目群の2科目4単位を履修することを指導(岡山)
 - 無理に当該年次で履修する必要はない旨指導(広島)
 - 司法試験選択科目よりも、答案や法律文書に係る書く力を養うことを主な目的とした授業科目「法学演習」の履修を推奨(学習院)
- 教員との個別面談、履修相談会等を通じて意見交換及び指導を実施。(大阪)
- 在学中受験をする・しないを個人の判断に委ね、いずれの選択をしても大学としてサポートすることを入学前や入学時のガイダンス等の機会に繰り返し学生に説明。また、履修相談会やその他の個別相談の機会に、修了後受験に向けた履修計画・学習計画について助言。(東京都立)
- 在学生ガイダンスおよび新入生ガイダンスにおいて、学生全員に在学中受験について説明を実施。(南山)
- 学習ロードマップ(各学年、各学期ごとの到達目標)を作成・公開し、学生が自身の実力を把握し取り組めるよう工夫。(関西学院)

6. 司法試験の在学中受験導入による、 法科大学院教育への影響について

6. 司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

(1) 司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（全般的なこと）（一例）

<法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点>

- ロールモデルとなる学生（合格者）が存在することで、学生の学修意欲や態度が高まった。
- 在学中受験を意識し、法科大学院における学修（ひいては単位取得）に、より集中して取り組むようになった。
- 司法試験終了後に、司法試験科目以外の科目（実務系科目、展開・先端科目、リサーチペーパー等を含む）を積極的に履修するようになった。
- 予備試験を理由として授業を欠席する学生や、予備試験に合格し法科大学院を退学する学生が減少する可能性がある。

<在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点>

- 司法試験に十分に対応できるレベルに達していない学生も、在学中受験を目指すようになった。
- 司法試験科目以外の科目を軽視したり、受験対策にばかり目が向くようになる懸念がある。
- 在学中受験を目指す学生の負担（例：通常や期末試験との両立、2年次後期から3年次後期の授業負担）の軽減が必要である。
- 3年次後期の授業開始までに司法試験結果は判明しないため、3年次後期の履修科目に迷いが生じる。

<上記以外に、法科大学院教育に与えた影響があったと考える点>

- 正規の授業を欠席する学生（例：全国模試の受験、就職活動等）が増加した。
- 実力をじっくり養成するよりも、早期に合格するために要領よく指導するよう求められる傾向が懸念される。
- 学修が追い付かない学生の学修意欲が低下した。

6. 司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

(2) 司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（在学中受験合格者）（一例）

<法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点>

- 在學生にアドバイスをする様子が見られ、在學生も体験談をより身近なものとして受け入れやすくなった。
- 教員が、合格した学生から指導上の示唆を得やすくなった。
- 司法試験以外の学修により一層積極的に取り組む様子が見られた。

<在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点>

- 学事暦上、3年次後期の授業開始までに司法試験結果は判明しないため、履修科目を選択・変更することが難しい。
- 法律基礎実務科目や、グループ等で成果を発表する模擬裁判等の科目において参画意欲が減退している者が散見される。
- 3年次の秋冬学期に開講される科目について、履修意欲が減退している学生もいる。
- 在学中受験に合格しているにもかかわらず、修了が危ぶまれる者や、修了に必要な単位を取得できず修了できなかった者がいた。

<在学中受験導入前に比べ、法律実務や学生の関心に沿った学修内容に取り組む学生は増えたか。>

- 展開・先端科目の履修者が増加した。
- リサーチ・ペーパーや法政理論専攻修士課程との共通科目の履修者が増加した。
- 外国法や実務系科目など、司法試験に直結しない科目の学修に積極的に取り組む学生が増加した。
- 展開・先端科目の履修について、在学中受験導入前に比べ、単位を取得をできさえすれば良いという傾向が強まっている。

<修了後・司法修習後に向けた就職活動が、法科大学院における学修に影響していたか。>

- 授業の欠席者が一定数いた。
 - 特に、最終学年では模擬裁判等のように出席した上で講義におけるパフォーマンスを評価・重視する科目において欠席・遅刻・早退が増加した点で、プロセスとしての教育を阻害しており、深刻に受け止めている。
 - 地方大学から関西・関東の説明会に出席するためには半日以上授業を休まなければならない、影響は都市部の大学に比べて大きい。
- 就職活動の時期が早くなったことにより、2年次設置科目の運営や学修などに影響が生じていないかを注視している。

6. 司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

(3) 司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（在学中受験不合格者）（一例）

<法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点>

- 現時点における、司法試験に対する自身の到達度を把握する機会としての意味はあり、これまでの学修の振り返りと今後の学修に活かし取り組むという契機にもなっている。
 - 授業の様子からは、不合格という事で投げやりになるのではなく、翌年の受験に向けて改善しようという意欲を感じた。
 - 結果が判明した直後から、教員に起案を提出する等指導を求めたり、秋学期に受講登録した科目についても意欲的に学修している。
- 3年次夏季休業期間や秋学期に設置された実務系科目や展開・先端科目に積極的に取り組んでいる。

<在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点>

- 受験後から法科大学院修了とその後に向けたフォローアップ体制を構築する必要がある。
- 精神面、学修面からのケアが必要である。
 - 周囲の多くが在学中受験に合格している中、不合格であったことが精神的に苦痛を感じている者もいる。また、学修意欲の点において、在学中受験合格者の中に講義へのモチベーションが顕著に低下している者を間近に見つつ、不合格者はなお高い学修意欲を維持しなければならない状況が辛いという声があった。
 - 不合格者への配慮と合格者への祝賀の扱いが難しい。
 - 合格発表後、不合格者は、司法試験とは無関係な科目について相対的に集中力を欠いていた。意欲的に授業に取り組む合格者を見て、余計に自己評価を下げるのではないかと懸念される。
 - 短答式試験の不合格者の中には、秋学期の授業当初から出席してこないという者もいた。
 - 教員は合格したことを前提とする発言をしないしてほしいとの意見が寄せられた。
- 司法試験受験後～合格発表までの間授業がないため、その期間における研鑽の中だるみが以前と比べて一層生じるようになった。

6. 司法試験の在学中受験導入による、法科大学院教育への影響について

(4) 司法試験受験後～法科大学院修了までの学修状況について（在学中受験不受験者）（一例）

<法科大学院教育へポジティブな影響を及ぼしていたと考える点>

- 同学年の在学中受験者（特に合格者）の存在が、学修意欲の向上につながった。
- 在学中受験者の学習計画・学習方法を参考にして、計画的・効率的に学習しようとする者がやや増加した。
- 事前に受験意思の有無の確認や相談などの対応を行っており、不受験の明確な意思があった者が多かったと考えられることから、在学中受験者の動向にさほど影響を受けなかったと思われる。
- 修了後の初回受験での合格を目標として、履修科目をあえて詰め込まず、修了まで余裕をもって少しずつ履修していく者が少ない。

<在学中受験によって生じた法科大学院教育における課題や、改善が必要と考える点>

- 在学中受験の導入に合わせて、3年次前期に担当していた必修科目を後期に移動したことが、在学中受験不受験者においては、司法試験に向けた勉強が忙しくなる時期に必修科目を履修することとなり、負担が重たくなっている。
- 一部の実務基礎科目の開講時期の前倒ししたため、負担が短期に集中することとなった。また、展開・先端科目や実務基礎科目を秋学期にまとめて履修することとしたため、修了後の司法試験に向けた勉強に集中的することがやや難しくなっている部分があると思われる。
- 在学中受験者に配慮するため、試験の実施時期をずらしたり長期の休講措置を採るなどした場合、在学中受験不受験者にとっては不要不急の措置であるため、かえって継続的な教育効果を削ぐ面がある。

(5) 合格者・不合格者・不受験者が学年内に混在することによる、学修指導・学生指導等への影響について（一例）

- 在学中受験者と不受験者、在学中受験の合格者と不合格者が混在する中で、授業内容やカリキュラム編成等について学生のニーズにどう応えていか模索していく必要がある。
- 不合格者、不受験者に対する個別指導、面談の必要が生じた。
- 就職活動の早期化に伴い、不受験者や不合格者を中心として就職活動を理由として講義を欠席する者がいることに対する不平不満が非常に強く感じられる。
- 特段支障はなかった。